

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	京都市御前児童館	施設種別	児童館 (旧体系：)
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構		

令和 2 年 4 月 6 日

総 評

京都市御前児童館は、もともと地域の方々で構成された運営委員会（任意団体）形式により運営を担い始め、四条通御前という非常に交通利便性の高い立地にある児童館であり、地域自治連合会などの地域団体とともに地域に根差した児童館としての運営が行われてきました。

5年前に本運営委員会は、一般社団法人京都御前福祉会として法人化され、一法人一事業所として新たに組織運営基盤を整えて、児童館・学童クラブの運営を行っています。

「利用者や地域のニーズに応えられるように常に情報を集め、地域全体で取り組む子育て支援のための中核となれるような児童館を目指す」ことを理念としています。また、「遊びを通して子どもたちの育ちを援助、家庭が地域で孤立しないよう保護者同士つながる機会、地域と結びついた活動」などを基本方針として掲げ、本児童館の支援員として永年従事してこられた管理者がリーダーシップを発揮して、地域団体と連携し、地域ニーズ及び利用者ニーズを適切に汲み取り、事業に反映されています。

0歳児の親子には、育児不安や共通の悩みを共有・共感できるよう親同士のつながりを大切にするため、乳幼児クラブには定員制を設けず希望に沿って参加できるなど、ニーズに即した顕著な取組みを聞き取ることができます。さらに、行政や関係機関とも「御前まつり」などを通じて、有効な連携が図られている状況がうかがえます。

その他、地域のお母さんたちの活躍の場として児童館のボランティア団体「お手伝いママ」を組織し、お母さんたちが気軽に集いかつ多様に貢献できる「場」を提供され、児童館と保護者ともに相乗的な効果を上げられている状況を聞き取ることができます。

地域の方々が運営主体となり、運営委員会形式で行われてきた組織を、より発展的に継承していくために一般社団法人として法人化され、運営を推進されていますが、法人設立後に組織運営のあり方、意思決定のもち方に一程度の課題が見受けられます。

地域の方々に支えられた運営の良さ伝統を残しかつ生かしながらも、法人の根拠法に基づいてガバナンス（組織運営管理体制）状態を見直し、適切な組織運営とマネジメントが行われることが望まれます。

見直しには、現場の判断だけではなく、第三者の専門的な支援も得ながら、法人全体としてより充実した組織づくりを目指してください。

児童館の設置目的及び特性を踏まえた基本目標として、「地域におけるすべての子どもと家庭のウェルビーイングの推進」につなげていくことを示されていますが、中長期的な視点での中期計画書の策定はなされていません。

中期的には、人材育成や短期では解決しにくい地域課題、児童館機能の構築など、明確なビジョンや数値的な目標設定が求められます。これからも地域に根差した、地域の成長と共にある児童館として、中期計画を策定され、多様な関係者と共有しながら推進されますことを期待しています。

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>Ⅱ－４－（３） もともと地域の運営委員会からの始まりで、本児童館を地域の中で育み、地域と共にある児童館及びその取り組みが行われています。児童館まつりや「まちなかハロウィン」などの事業を実施し、地域の子どもから大人まで多くの人の関りの中で運営されている状況を確認することができ、高く評価できます。</p> <p>また、平日のランチ時には、「おんまえカフェ」を実施し、お母さんたちが交流できる場や機会を提供するなど、地域ニーズに基づいた児童館独自の運営が行われています。</p> <p>A－５ 虐待を受けた児童や不登校の子どもたちへの支援体制などについては、日常的に子どもたちの様子や、子どもたちだけではなく、何か困った様子のある保護者がいないかなど、状況や様子の変化について注意深く観察されています。気になったことがあればしっかりと記録し、学校や保健福祉センターなどの関係機関とも連携が取れている状況を確認することができます。</p> <p>また、不登校傾向があった子どもたちの居場所をつくり、適切な支援のもと学校にもどれるようになるなど、具体的な支援事例を聞くことができ高く評価できます。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>Ⅰ－１－（１） 「利用者や地域のニーズに応えられるように常に情報を集め、地域全体で取り組む子育て支援のための中核となれるような児童館を目指します」と、法人・児童館の存在、目指すべき方向性は読み取れ、地域に根差した運営が行われている状況を確認することができますが、児童の権利や職員の行動規範となるような明確な記述を見受けることができませんでした。</p> <p>地域特性や特色を表現し本児童館として唯一理念の構築を再度検討し取り組まれますことを期待します。</p> <p>Ⅰ－２－（１） 「子ども育成・家庭支援・地域福祉」の３つを基本方針に掲げ、実現にむけた目標を設定しているとされていますが、中長期的な視点からの具体的なビジョン及び計画の策定状況を確認することができませんでした。</p> <p>地域にある支援ニーズから、より具体的な計画としての策定を検討いただくとともに、数値目標などを設定したうえで、そのビジョン・計画を単年度事業計画にも反映し、組織的に策定し取り組まれることが望まれます。</p> <p>Ⅱ－２－（３） 京都市児童館学童連盟が提供されている「科目履修表」に基づいて研修を行っているとの状況を確認することができましたが、職員一人ひとりの育成・研修計画は策定されておらず、職員個別の知識・専門性の向上など、スキルアップに資する研修実施状況は確認できませんでした。</p> <p>また、研修後の報告などは行われていますが、研修結果を精査し、次の計画に反映させるような取り組みとはなっていませんでした。今後は、職員一人ひとりの意向に基づき、組織として成長の方向性を共有できるように、計画的に取り組まれますことを期待しています。</p>

※それぞれ内容を３点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	1	① 理念が明文化されている。	b	b
		2	② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	a
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	3	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	b	b
		4	② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b	b

[自由記述欄]

児童館の理念・方針については広報誌、パンフレットにおいて明記されていることが確認できる。理念の職員間への周知について、会議や研修などにおいてなされているとが書面や職員用ハンドブック・掲示物他も確認できず、明確に周知されているとは言えない。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	5	① 中・長期計画が策定されている。	b	c
		6	② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	b	c
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	7	① 計画の策定が組織的に行われている。	b	c
		8	② 計画が職員や利用者等に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

中長期計画及び中長期計画の視点を踏まえた単年度事業計画書については確認できなかった。単年度事業計画の策定については、職員との会議時に協議し組織的に策定されている。また、朝礼の際に口頭で事業計画の詳細について説明を行っている。職員全体会議を記した会議録が確認できる。利用者に対しては、毎年開催する保護者説明会にて周知されている状況を聞き取ることができた。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	9	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	b	b
		10	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	b
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	11	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	b	b
		12	② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	b	b

[自由記述欄]

職員業務分担表が策定されている。しかし、割当と役割の確認表であると読み取れ、管理者自らの役割と責任を示した職務分掌や担当することの理由や妥当性、担保根拠について示す文書や記述は確認できなかった。遵守すべき法令を把握するため、京都市児童館学童連盟が開催する研修会への参加状況をつきとることができる。児童館運営上必要となる関連法令の把握について、一程度取り組まれている状況を聞き取ることができるが、関連法令のリスト化やその見直しなどについての取り組み状況は確認できなかった。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	13	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b	b
		14	② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	b	b
		15	③ 外部監査が実施されている。	c	c

[自由記述欄]

地域に根差した児童館として、地域の潜在的利用者数やニーズに対する状況把握には日常的に取り組みられていることを聞き取ることができるが、中期的な計画に落とし込み評価するところまでの取組みは確認できない。活動の現状について、行実施計画を書面で回覧し意見交換の場を設定しているが、定期的継続的に評価分析しているとはいえない。日ごろ地域の多様な方々との関りの中で、児童館の取組みが評価され、より良い運営へと導かれている状況をうかがうことができるが、その運営について専門的な視点から評価されている状況は確認できなかった。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	16	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	a
		17	② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	18	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	b
		19	② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

必要な人材に要する資格が明確であり、採用においても実施されている。しかし、職員の就業状況に関して定期的に確認する仕組みがあるとはいえず、改善が望まれる点である。福利厚生に関しては、共済加入、医療制度、懇親会等の開催を行っており、積極的な実施が確認できる。また、年1回のジョブカードによる自己評価を行うことで労使相互の要望を述べる機会を設けており、定期的な人事考課に反映する仕組みがあると見て取れる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 人材の確保・養成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	20	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	a
		21	② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	c
		22	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	c
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	23	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	a	a
		24	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	a	a

[自由記述欄]

「京都市児童館活動指針」に定める研修体系に則り実施されている。一方で、職員個々に対する教育研修に関しては「科目履修表」に基づき担当者がヒアリング実施によって実施しているも、計画的に行われているとはいえず、実施された件についての見直しする仕組みにも一定の課題が見受けられる。実習生に関して、「児童館のための実習生受入マニュアル」に基づき実施されており、「実習計画表」を作成し、それに基づいて実施されている状況を聞き取ることができる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	25	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	a
		26	② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	a

[自由記述欄]

安全の確保に関して、担当者を設置することで定期的に検討会を実施し記録を取り、朝礼で職員間の共有を図るとともに個々のヒアリングにも力を入れていることが聞き取りにより確認できる。安全対策について、「ヒヤリハット」の報告書を作成して職員間で把握し、事故等事後の始末書を作成し署名押印したものを保存している。「担当者一覧」に規定され組織的に対応されており、規程についても「感染症、食中毒予防、事故防止、災害対策」の各種マニュアルを整備し、設置している。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流と連携	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	27	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a	a
		28	② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		29	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a	a

[自由記述欄]

学区の子育て支援ステーションとして年二回の会議を開催し、行政や各種関係機関とともに地域と連携した事業である「御前児童館まつり」を実施している。
 その際管轄の警察署や消防署、嵐電京福電鉄やNTT西日本などのかかわりを持ち、継続して実施している状況を聞き取ることができる。
 ボランティアの受入れについてマニュアルを作成し、地域のお母さんたちの活躍の場として、ボランティア団体「お手伝いママ」を組織し、積極的に取り組んでいる状況をうかがうことができる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流と連携	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	30	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	a
		31	② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	32	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	a
		33	② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

地域の関係団体についてリスト化することで可視化し、職員間で常に意識するように図っている。特に小学校との連携がしっかりと取れており、定期的な連絡体制が整備されている。また、平日のランチ時間帯に「おんまえカフェ」と称した交流の場を設置し、母親との交流を促している。その際の来場者の名簿を作成している状況を確認することができる。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	34	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a	a
		35	② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	a
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上昇に努めている。	36	① 利用者満足の上昇に意図した仕組みを整備している。	a	a
		37	② 利用者満足の上昇に向けた取り組みを行っている。	a	a

[自由記述欄]

法人を事業主体として「コンプライアンスマニュアル」を作成し「人権研修」を実施することで職員間での周知を徹底している。
 利用者満足度の上昇のため、パンフレットに意見募集窓口の連絡先を明記し、常時意見や要望相談を受け付けているとともに利用者アンケートを実施し、受付結果に関する分析を行い、報告書を作成している状況を確認することができる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	38	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	b
		39	② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b	b
		40	③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	b

[自由記述欄]

意見集約の仕組みに基づき寄せられたものを「対応記録」として残しているが、解決の仕組みとして結果の周知公表がなされておらず十分とはいえない。また、加入する連盟のマニュアルを用いているものの事業所の実態に合わせた見直しをしておらず、十分に活用しているとはいえない。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	41	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b	c
		42	② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	c
		43	③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	c
	Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。	44	① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	b
		45	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	b

【自由記述欄】

子どもたちの支援について、自己評価と分析を定期的に行っているとはいえ、必要に応じて不定期な取組み対応となっている。年次の自己評価と分析への取組みは行われておらず、それに伴う次年度の単年度事業計画の策定に反映しているとは言えない。このサービスに関しては、年間の活動計画を定めて実施している。その際に活用しているものとして「児童館対応マニュアル」「業務マニュアル」を策定し、運用している状況をうかがうことができる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。	46	① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	b
		47	② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	a
		48	③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	a

【自由記述欄】

サービスの標準的な実施方法について定期的検証と見直しをしているとするものの、見直しに関する記録は確認できない。実施状況について、諸日誌等に記録記載があり確認できる。利用者に関する記録については、文書管理規程に基づき保管されているが、職員間での情報共有の方法も含めさらに有効な手段としての検討が求められる。毎日の報告は日誌において確認でき、朝礼で共有されていることも記録が確認できる。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	49	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	a	a
		50	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	a

【自由記述欄】

児童館利用・サービス提供の開始は毎月「児童館だより」「学童クラブだより」を発行し、ホームページに事業を掲載するなど、さまざまな場面で利用者が情報を得ることができるように工夫がなされている。また、活動内容を動画やスライドなどを活用し、利用者に分かりやすく伝える工夫がされていた。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	51	① サービス実施計画を適切に策定している。	a	a
		52	② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	b

【自由記述欄】

利用者に対するサービス実施計画は策定され、年度末には職員会議にて事業評価、見直しの作業を行い、翌年度の事業計画に反映していることを文書、聞き取りより確認した。本福祉サービス第三者評価など、定期的な受診とはなっていない。

A 児童館等の活動に関する事項

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	53	① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	a	b
		54	② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	a	a
		55	③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	a	a
		56	④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		57	⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	a	a

[自由記述欄]
 利用の際の[きまり(事項)]が、利用者に理解できるように定められており、利用者には丁寧な説明もされた上で、館内掲示もされている。また、それらのきまりは、定期的に職員間で検討し、見直しを行っていることを聞き取った。特定の使用目的に限定されないスペース(遊戯室)なども活用し、ランチタイムスペースとして提供するなどの工夫も見られた。利用者は乳幼児から中高生まで幅広く年齢が参加し、小学生は「こども会議」で自ら遊びを考え創造的に遊びを展開したり、中高生は「御前児童館まつり」のスタッフとして、自発的に活動に参加できるような工夫もなされている。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	58	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		59	② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	a	a
		60	③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	a	a

[自由記述欄]
 乳幼児と保護者が日常的に利用しており、利用者それぞれの月齢にあったおもちゃを設置し、安全、安心に使用できる場を提供していた。また、それらの活動は年間を通じて、参加者のニーズに基づいて計画され、「乳幼児クラブ」など月齢別のクラブ活動、地域の関係機関との連携のもと、「母乳のお話」、「ベビーマッサージ」などが開催されていた。「御前児童館まつり」では、保護者が参加して「母親人形劇クラブこの指とまれ」を結成、活動を継続する機会を設けていることを聞き取った。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応 (核となる児童館活動)	61	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		62	② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	a	a
		63	③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	a	a
		64	④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

[自由記述欄]
 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助ができるように、個別援助技術研修を受講している。遊びの場面で起こるトラブル等の対応にも、児童の成長につながるよう適切に対応するための研修が計画・実施されている。京都市児童館学童連盟の「個別・集団援助技術研修」を受講した職員が報告し、課題を持った児童への対応の記録をしていることを聞き取った。国籍の違いや障がいの有無、宗教上の違いなどを超えて、思いやりをもつように働きかけている。クラブ活動の内容等は「こども会議」にて意見を聞き、自主性・主体性を育てることを大切にして、卓球・将棋・工作クラブなどを開始し、地域から多くの児童が参加していることを聞き取った。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中高生への対応	65	① 日常的に中高生の利用がある	b	b
		66	② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	b	b
	A-5 利用者からの相談への対応	67	① 利用者からの相談への対応が自然な形でわれている	a	a
		68	② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	a	a
	A-6 障害児への対応	69	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	a	a

[自由記述欄]

中高生の利用はあるが、日常的に中高生だけで使用できる場や時間の設定はなされていなかった。ジュニアボランティア制度を敷き、プレイリーダーの役割を担う活動もあり、「まちなかハロウィン」では中高生が活動する機会も設けているが、自ら企画する機会には至っていない。利用者からの相談には、「おんまえカフェ」や各クラブの後の時間に対応したり、相談窓口を設置するなど、臨機応変に対応している事例が聞き取れた。不登校児や発達障害児への支援体制が構築されており、小学校と連携のケースや課題別研修での絵カードなどを充実させて対応にあたっていることが聞き取れた。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	70	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	a	a
		71	② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	a	a
	A-8 広報活動	72	① 広報活動が適切に行われている	b	b
		73	② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	a	a

[自由記述欄]

地域の関係機関と連携し、「人形劇サークル」「お手伝いサークル」などを運営している。また、地域社会で児童が安全に過ごせるように、集団帰りを実施する他、工事中の危険箇所を通る場合は職員が付きそうなどの工夫をし、「しおり」に明記していることを確認した。広報活動については、個人情報保護の視点で、同意書を許可を取っていない場合もあり、次年度への課題と認識されていた。児童館の活動内容がわかるようなお便りの作成研修を受けるなど、各種の行事案内を利用者にわかりやすく伝える工夫が行われていることを聞き取った。また、保護者や児童の意見を職員間で検討し、広報活動の各ツールに反映している。